

第6学年 社会科（人権）学習指導案

1 主題 よりよい生き方をめざして

2 主題設定の理由（省略）

3 ねらい

差別の中でたくましく生きた人々の活躍や思いを理解し、自分たちの生活や自身の生き方について考えることを通して偏見や差別のない社会をつくっていかうとする態度を養う。

4 指導計画

（1）これまでの学習

- ・ 道徳科「権利ってなんだろう？」（ひかり）・・・ 2時間
- ・ 社会科「室町文化と力をつける人々」・・・ 6時間
- ・ 国語科「古典芸能の世界」・・・ 1時間

（2）現在の学習

- ・ 社会科「銀閣寺と又四郎」・・・ 2時間（本時 2 / 2）

（3）これからの学習

- ・ 総合的な学習の時間「人権獲得をめざして」（ひかり）・・・ 5時間
- ・ 道徳科「くらしを支えた仕事や伝統文化」（ひかり）・・・ 1時間

5 本時の学習

（1）目標

差別された人々の悲しみや憤りに共感し、差別の不合理さを理解させるとともに、差別を許さない生き方をしようとする意欲を高める。

（2）普遍的な学習のテーマ 基本的人権の尊重

個人人権課題名 同和問題

（3）展開

学習活動	指導上の留意点
1 室町時代における日本の文化や技術について確認し、本時のめあてをつかむ。	○ 現代にも続く優れた文化や建造物が多く生まれた時代であることを意識させ、本時の方向付けをする。
室町文化を支えた人たちについて考えよう。	
2 資料を読み、人々のもつ又四郎に対する差別意識について考える。	○ 人々のもつ差別意識について考えることを通して、その不合理さについて理解することができるようにする。
3 又四郎の心情や周麟の言葉の意味について考え、話し合う。	○ 又四郎の思いに共感し、不合理な差別に対する悲しみや憤りを感じられるようにする。 ○ 周麟の言葉から、周麟が又四郎を一人の人間として認めていたことに気付くようにする。
4 自分たちの生活を振り返り、本時の学習のまとめをする。	○ 本時の学習を自分自身の生活や生き方に重ねて考えられるようにする。

（4）評価

- ・ 差別された人々の悲しみや憤りに共感し、差別の不合理さを理解することができたか。 【知識的側面】①
- ・ 差別された人々の悲しみや憤りに共感し、差別を許さずに生きていかうとする意欲を高めることができたか。 【価値的・態度的側面】②
- ・ 友達の意見を聞いて、自分の思いや考えを伝えることができたか。 【技能的側面】③